

【ファシリテーターの活動状況】

第6回地域包括ケア専門職“絆研修①病院から在宅へ「退院支援」

- 日時 令和3年7月4日(日) 9:15~12:15
- 場所 オンライン研修
- ◎ 研修参加者 49名 : 6グループ
- ◎ ファシリテーター 13名
- ◎ プレゼンター 4名
- ◎ 事務局等スタッフ 6名

※令和3年度第6回地域包括ケア専門職による多職種研修会シリーズ①について、昨年度に引き続き完全オンラインでの開催とし、ファシリテーター等スタッフによる3回の打ち合わせ会による準備をして研修会にのぞみました。

【プレゼンテーション】

- ◆地域包括ケア(鳥取市長寿社会課橋本参事)
- ◆アイスブレイキング・研修の目的・まとめ(研修ディレクター足立誠司医師:鳥取市立病院)

<p style="text-align: center;">シリーズ①退院支援 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none">・ 病床機能分化・連携について理解し、在宅療養に向けた円滑な退院支援を行うことができる・ 多職種協働による退院前カンファレンスが退院支援に重要である・ 価値観の多様性を理解し、本人の生き方を尊重した合意形成を行うことが大切である	
--	--

- ◆ワーク①・退院前カンファレンスの準備(徳吉淳一ファシリテーター:徳吉薬局)

<p style="text-align: center;">退院前カンファレンスの目的と意義</p> <p>目的</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「切れ目のない」医療・看護・福祉・介護サービスの提供<ul style="list-style-type: none">- 患者の病状や在宅療養上の問題等の情報共有- 支援内容や方法の検討・確認 <p>意義</p> <ul style="list-style-type: none">・ 在宅療養に対する本人、家族への安心感を提供<ul style="list-style-type: none">- 治療・ケアを総括し、『患者』から『生活者』へ移行するための、情報共有と治療・ケアの連続性の保証の場・ 信頼関係構築の場・ 在宅医療に関する教育の場 <p style="text-align: right;">11</p>	
---	--

◆ワーク②・退院前カンファレンスを体験する(曾田淳ファシリテーター:デイサービスあらいぶ)

The image shows a presentation slide on the left and a video of a man on the right. The slide has a green header with the title '多職種協働五箇条'. Below the title, there are five numbered items, each with a current state on the left and a target state on the right, separated by a right-pointing arrow (⇒). At the bottom of the slide, there is small text: '日本ケアワーカーズ連合会 研修部 曾田 淳'.

Current State	Target State
一. ダメ出し文化	⇒ 責めない文化へ
二. ピラミッドな関係	⇒ フラットな関係へ
三. 土壇場情報共有	⇒ 先取り情報共有へ
四. 病気だけの情報	⇒ 人生の情報共有へ
五. 本人だけ癒す医療	⇒ 家族も癒す医療へ

日本ケアワーカーズ連合会 研修部 曾田 淳

【ファシリテーター】

◆ブレイクアウトルームでのグループワークの進行

1. ファシリとして良くできたと思うこと、このままやっっていこうと思うこと

- ・ブレイクアウトルームでの環境作り、笑顔での対応、ワークの進め方の丁寧な説明を意識して行動しました。
- ・なるべくメンバーで考えていただくよう待つ。司会者のじゃまにならない
- ・参加者の緊張をほぐすために、笑顔を意識してファシリテートしたこと。
- ・グループワークで話しやすいような雰囲気を作れたと思う。

2. ファシリとして今後努力を要すること、やり方を変えてみようと思うこと

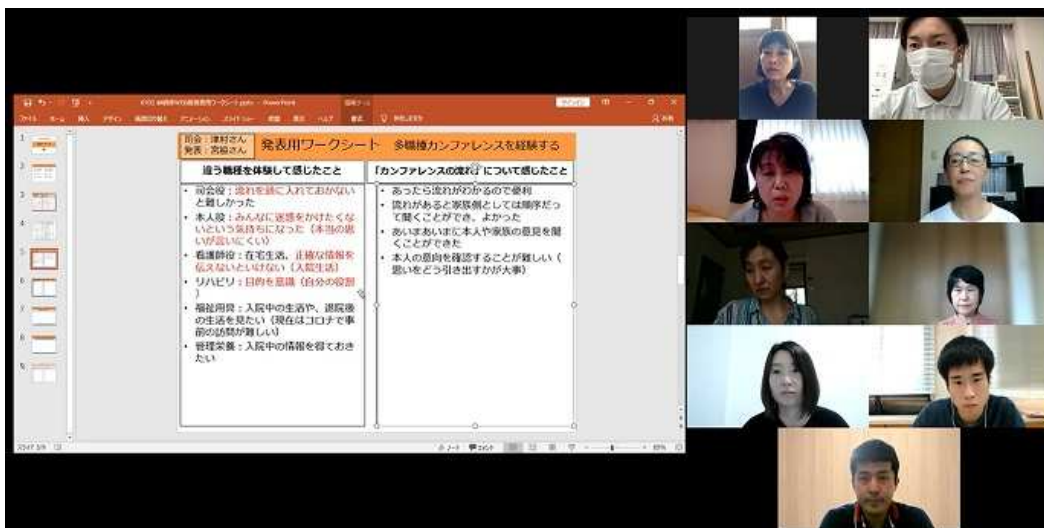
- ・ブレイクアウトルームで話すタイミングが重なり合ったりすることがあったので、発言者は手を挙げてから発言してもらうように、自分から改めてアナウンスしたほうがよかった。
- ・(司会者として)問いかけに対しての返答があるまでの間を開け過ぎたので、もう少し速やかに話を進めてもよかった

3. 研修参加者にとってよかったこと

- ・リモート研修だったので移動時間が短縮もしくはなかったこと。画面共有が間近に見られたこと
- ・ブレイクアウトルームでの話し合いは、顔の見える、声の聞き取りがしやすい環境で有効な話し合いが可能であった。
- ・自分の好きな場所で参加でき、研修中も比較的リラックスした状態で参加できる。
- ・退院前カンファレンスのロールプレイが上手いき、他職種を演じることで良い気付きをされ、手ごたえが感じられた。
- ・退院前カンファレンスで他職種を経験したことは他者の価値観、行動を考える機会となり有効であった。また、通常の己の行動を振り返る機会にもなったとの声が聞かれたことも有効であったと思う。
- ・違う職種になって相手の気持ちを考えること、改めて自分の職種についても考えてみたこと
- ・模擬カンファレンスを開催することで、今までの振り返りができ、多職種で関わる事の大切さを再確認できたのではないと思う。
- ・模擬の退院前カンファレンスで違う職種を体験することで相手の立場を理解することができる
- ・全体での発表を参加者にしてもらい、参加者自らの積極性が上がった。
- ・司会、発表者を参加者の中から募ることで、主体的に参加したと実感できたのではないかと。

4. その他(感想・意見)

- ・初めてのブレイクアウトルームでの話し合い、ファシリリの役割もあり、非常に緊張しましたが、研修者と記録者の笑顔に励まされ、楽しく研修会を体験できました。Web形式でのグループ討議の有効性を実感できた機会でした。参加させて頂いたことに感謝いたします。
- ・研修本番も事前準備も含めて大変勉強になり、刺激になります。本当にいい研修会だと思います。
- ・参加者のかたが積極的に発言できる研修会となっており、とても有意義な研修だと感じています。
- ・前回より申込数が増え、オンライン研修が少しずつ浸透してきているのかなと感じた。



グループワークの様子